

仙台高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	プロジェクト実習 I	
科目基礎情報							
科目番号		0005		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		実験・実習		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		建築デザインコース		対象学年		2	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		特になし。適宜参考文献・資料を紹介する。					
担当教員		坂口 大洋,小林 仁,伊師 華江					
到達目標							
具体的なプロジェクトをベースとし、建築デザインに必要な創造性及び協働性を身につける。 建築デザインに必要な情報リテラシーを身につける。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		デザインコンペティションのグループリーダーができる。		デザインコンペティションに参加できる。		デザインコンペティションに参加できない。	
評価項目2		情報リテラシーがわかり、プログラミングができる。		情報リテラシーがわかる。		情報リテラシーがわからない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 3. 建築デザインの実験・実習科目を通して、論理的かつ実践的思考能力を育成する。							
教育方法等							
概要		デザインコンペティションは、様々な空間や建築のデザイン案を広く一般から募るものである。デザインコンペティションに参加することは建築デザインを学ぶ近道ともえよう。授業では、コンペティション形式の課題に取り組み、基礎的な知識を得た上で、外部団体が主催するデザインコンペティション（高専デザインコンペティション、高校生対象のデザインコンペティションなど）への参加を目指す。					
授業の進め方・方法		①グループワークによるリサーチ・プロジェクト ②外部団体主催のデザインコンペティション参加 予習：毎回の授業前までに、授業で行う内容と意義を 考えて整理しておくこと。 復習：毎回の授業後に、授業で学んだことを振り返り、今後へ活かす方法を考えること。					
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		建築における計画・構造・環境の問題点を探し、その解決策を提案できる。		
		2週	リサーチ・プロジェクト		建築における計画・構造・環境の問題点を探し、その解決策を提案できる。		
		3週	リサーチ・プロジェクト		建築における計画・構造・環境の問題点を探し、その解決策を提案できる。		
		4週	リサーチ・プロジェクト		建築における計画・構造・環境の問題点を探し、その解決策を提案できる。		
		5週	リサーチ・プロジェクト		建築における計画・構造・環境の問題点を探し、その解決策を提案できる。		
		6週	リサーチ・プロジェクト		建築における計画・構造・環境の問題点を探し、その解決策を提案できる。		
		7週	リサーチ・プロジェクト		建築における計画・構造・環境の問題点を探し、その解決策を提案できる。		
		8週	リサーチ・プロジェクト		建築における計画・構造・環境の問題点を探し、その解決策を提案できる。		
	2ndQ	9週	外部団体主催のデザインコンペティション参加		コンペティション形式の課題に取り組み、基礎的な知識を得る。		
		10週	外部団体主催のデザインコンペティション参加		コンペティション形式の課題に取り組み、基礎的な知識を得る。		
		11週	外部団体主催のデザインコンペティション参加		コンペティション形式の課題に取り組み、基礎的な知識を得る。		
		12週	外部団体主催のデザインコンペティション参加		コンペティション形式の課題に取り組み、基礎的な知識を得る。		
		13週	外部団体主催のデザインコンペティション参加		コンペティション形式の課題に取り組み、基礎的な知識を得る。		
		14週	外部団体主催のデザインコンペティション参加		コンペティション形式の課題に取り組み、基礎的な知識を得る。		
		15週	外部団体主催のデザインコンペティション参加		コンペティション形式の課題に取り組み、基礎的な知識を得る。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	物理実験	物理実験	電磁気に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。		3	

				電子・原子に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	設計・製図	与えられた条件をもとに、コンセプトがまとめられる。	3	
				講習会等において、コンセプトなどをまとめ、プレゼンテーションができる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	2	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	2	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	2	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	2	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	2	

	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3	
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	
				要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	3	
				課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	3	
				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	3	
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	30	70	0	100
基礎的能力	0	0	0	30	0	0	30
専門的能力	0	0	0	0	70	0	70
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0